



つなかり



「公民館活動活性化ステップアップセミナー」が開催されました。

6月25日(金)「公民館活動活性化ステップアップセミナー」がオンラインで開催されました。

今年度はコロナウイルス感染症予防として、初のオンライン開催を試みました。会場は南予教育事務所を接続拠点として、南予管内各市町に分散された13か所のサテライト会場と個人が接続する個別接続会場に分かれ、合計36か所を接続しての実施となりました。今回は公民館関係や学校関係等から185名の方に御参加いただきました。

みなさんが主役です!

今年度は「災害への対応に関する公民館の役割」をテーマに、講演、事例発表、研究協議を行いました。はじめに松山市高浜公民館の館長補佐である蔭原政徳さんから「自主防災と公民館」と題して御講演いただきました。平成16年から組織されてきた高浜地区



自主防災会の会長を務められておられる蔭原さんの御経験や平成30年度西日本豪雨災害発生時に避難所となった公民館での出来事、その後、さまざまな反省を踏まえ、さらに見直されてきた活動など、具体的な取組がたくさん紹介されました。「防災活動等に関わっている関係者だけががんばるのではなく、地域住民一人一人の意識が向上しなければなりません。『みなさんが主役です!』このことを根気強く発信し続けることが大切ではないでしょうか。」という言葉とともに講演は結ばれました。



今回の講演資料「高浜公民館の取組」が必要な方は、南予教育事務所地域教育推進課社会教育グループまでお問い合わせください。

事例発表(宇和島市吉田公民館)

事例発表は、同じく平成30年度西日本豪雨災害で避難所運営を経験した吉田公民館の公民館主事、加地優介さんから事例を報告していただきました。今回は避難所運営の当事者として、その時「何を感じ」「何を思った」のか、これまで語ってこ

られなかった心の内をお話しいただきました。加地さんが避難所運営において心がけた3つの視点を中心に、当時を振り返っていただきました。いずれの言葉も教訓となるものでしたが、通常の公民館活動を行う際にも通じる考え方でもありました。つまり、平素の活動姿勢が非常時にも生かされるといえます。誰もが経験するわけではない緊急時の対応について、体験者としての心情が語られたことで、参加者一人一人が問題を真剣にとらえる時間となりました。

避難所運営する上で大事にしたこと

1. 避難所では下を向かない
2. お願いできることは、すべて任せる
3. 避難者(地域)との対話